



開館時間：

毎週火曜日～日曜日、
午前9時～午後4時30分、休館日：月曜日および旧正月

参観者への注意事項：

- 1.入館には制限人数がございます。
- 2.館内での喫煙、飲食およびペットの連れ込みはご遠慮ください。
- 3.館内では大声での対談や他人への迷惑になる行為はお控えください。展示品には触ったりしないでください。
- 4.特別なイベント及び、催し物展示期間以外、二階は一般の方のお立ち寄りには禁じられています。



交通案内

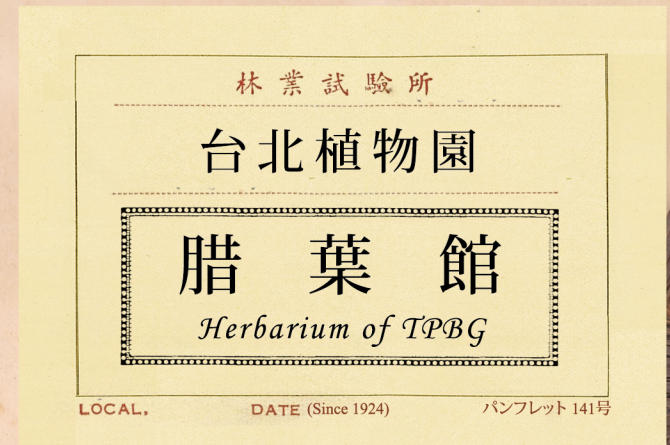
市バスのご案内：

- ① 植物園站：1、242、624、907、藍28、和平幹線
- ② 三元街口站：204、630
- ③ 植物園站：1、204、242、624、630、907、和平幹線
- ④ 建国中学（歴史博物館）站：1、204、630
- ⑤ 博愛路口：38、660、252、304

MRT(地下鉄)のご案内：松山新店線のG11小南門駅3番出口より、徒歩5分、植物園の博愛路の正門から入園。

Ubike(市営レンタル自転車サービス)ご利用者案内：植物園站(植物園内での自転車走行は禁止されています。)

発行者：黃裕星
 編集者：林鴻志、董景生、陳建文
 アートエディター：鄭培哲
 発行機関：行政院農業委員會林業試驗所
 住所：10066台北市中正區南海路53號
 ホームページアドレス：tpbg.tfri.gov.tw



早田文藏記念碑



フォリー氏の銅像

年表

- 1896年(明治29年)：民政局殖産部より小南門外に苗圃を設置
- 1904年(明治37年)：殖産局より標本室を創設(1905年12月火災にて標本多数焼失)
- 1911年(明治44年)：台北苗圃は殖産局林業試験場へと
- 1917年(大正6年)：フォリー氏の銅像除幕
- 1921年(大正10年)：台北苗圃は台北植物園に改称、中央研究所林業部成立
- 1924年(大正13年)：林業部腊葉館成立
- 1936年(昭和11年)：早田文藏の記念碑除幕
- 1939年(昭和14年)：中央研究所が体制変更、台湾総督府林業試験所成立
- 1945年(民國34年)：台湾省林業試験所成立
- 2000年(民國89年)：標本を「森林研究大樓」に移動、植物標本館成立
- 2017年(民國106年)：腊葉館の復旧工事完成、開幕

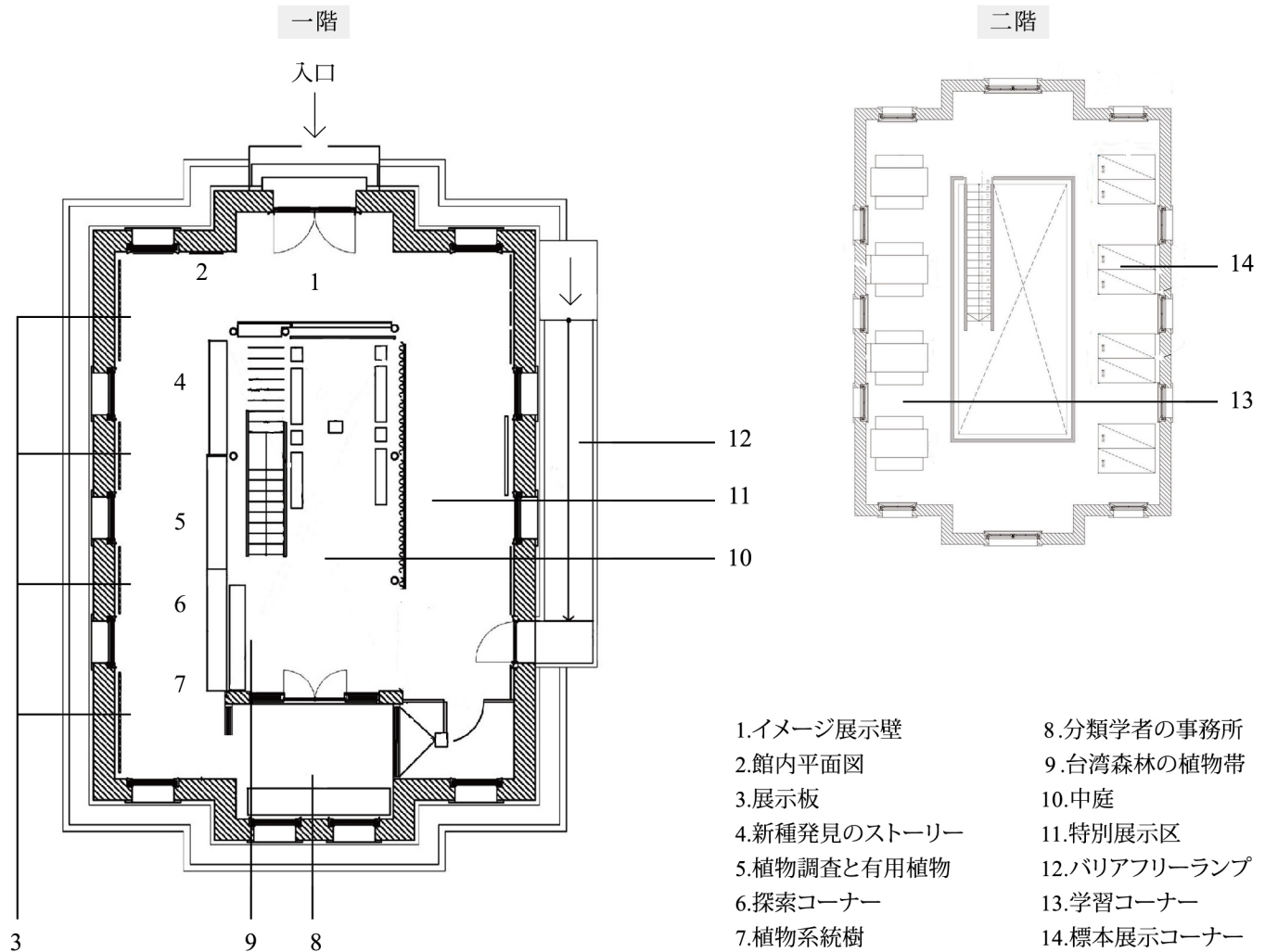


台湾初の植物標本館(ハーバリウム)

「台北植物園腊葉館」は台北植物園の西側にあります。1924年(大正13年)に建てられた元日本統治時代の臺灣總督府「中央研究所林業部腊葉館」です。2008年に台北市政府の公告により、市庁管轄の指定古跡として登録されました。

日本統治時代の初期、台湾の森林資源開発のため、「台湾植物調査事業」が行われました。それによって台湾の山野から採集された植物材料の保存や種類の調査などのため、乾燥させた後に「腊葉標本(押し葉標本)」を作りました。この展示館は台湾で初めて植物標本の保存を目的として建てられた建物です。台湾の植物標本の宝庫とも言えます。

植物標本の収集が続き、貯蔵量もそれにつれて増え続け、保存の空間が足りなくなり、2000年に標本を台北市の和平西路にある「森林研究大樓」(森林研究棟)の2階に新設された植物標本館に移しました。台湾の植物研究の歴史を引き継ぐため、林業研究所が5年間の歳月を経て腊葉館のリフォームを企画し、当時の館長の佐々木舜一氏の事務所は、早田文藏、金平亮三、及び佐々木舜一氏ら三名の一生を紹介する展示ホームに改装されました。さらに、かつて園内に置かれていた早田文藏氏の記念碑とフォーリー氏の銅像も同時に復元し、2017年に再オープンし、再び過去の風貌を再現しました。



腊葉館修復工事前(吳維修攝)



台湾總督府中央研究所林業部腊葉館外観



日本統治時代の腊葉館一階



日本統治時代の腊葉館二階